

1. 法人本部

はじめに

2013年度も2009年11月に策定した中・長期計画に基づいた事業を進めて参りました。

るうてるホームの移転、改築計画は2013年8月末に完成し、各種建築検査の後、9月26日にるうてるホームに引き渡されました。

引き渡し後は、9月27日に内覧会の開催を行い、多くの方に新しいホームを見ていただくことができました。その後、9月29日、30日の二日間で物品の搬入、10月1日、2日の二日間で入居者の引っ越しと、多くのボランティアの方々のご協力のもと旧施設から移転を行い、無事に開所となりました。10月14日に四條畷市長、市議員、岡山自治会、砂自治会の方々、また地域の方々、教会の方々を招き、竣工式を総勢200名で開催いたしました。

これは一重に、るうてるホームを日頃支えてくださっている皆様のお力と、お支えのもとにあることとして心から感謝してご報告をさせていただきます。

(1) 2012年度の法人の取り組み

2013年度事業計画に沿って以下に報告いたします。

法人は「法人理念の継承と共有を目的とした人材マネジメントの構築」、「組織力の強化とサービス向上を目指した人材の育成」、「効率的な組織運営と財務管理の推進」を重点課題として運営にあたってきました。

- ①「法人理念の継承と共有を目的とした人材マネジメントの構築」につきましては、るうてる法人会連合総会に、理事長以下全部長が参加しました。和歌山で自殺者の取り組みをしておられる藤藪康一氏よりキリスト教理念に基づいた実践報告を頂くことができました。また法人会連合総会における様々な他法人との出会いの一つ一つが、具体的なキリスト者ワーカーとの出会いであり、多くの刺激を受けることができました。

1月には、理事長と新理事とで推薦理事研修会に参加しました。社会福祉法人十字の園理事長、平井章氏の取り組みは、すでに四代目となる理事長がどのようにして法人理念の継承のための努力をしておられるかという、これもまた具体的実践であり、繰り返し法人設立時の熱い思いを共有することを教えられました。法人独自のテキスト作成や、視聴覚に訴える媒体の作成など、当法人でも検討、採用を進めて参りたいと存じます。

イースターとクリスマスには、職員向け広報誌、letter one を発行しました。法人報も建築の節目に二度ほど発行しました。いずれも、スタンドグラスの説明など法人理念の浸透の一助になればと願っております。

3月には東京老人ホームに常務理事に加え3名の部長が招かれ、るうてるホーム移転事業のご報告と紹介をする機会と今後合同ですすめられる研修について議論する機会が与えられました。この2年間の様々な実践を言葉に置き換えることによって、重要な理念継承者となる部長の成長に大きく寄与したものと期待しているところです。

- ②「組織力の強化とサービス向上を目指した人材の育成」につきましては、人事考課を導入した初年度となりました。新年度の目標設定からはじまり、今回の中間評価は移転、引越のため時間がとれませんでした。年度末の振り返りを各部長が中心に全職員が行いました。まだまだ等級表に沿ったの鳥瞰的な評価には至りませんが、これをもとに新年度の昇給に反映させました。まだまだ手探りではありますが、今後も取り組みをすすめてまいります。

階層ごとの研修は、順次予定通り開催されました。なお建築委員会も移転後の事業所横断を大きな課題として実施され、その役割を果たしてきました。建築事業という大きな役割を終えました

ので今年度をもって解散といたします。

危機管理委員会、保健衛生委員会、地域交流委員会は、それぞれの課題を移転後の状況に併せた形で設定を見直しつつ、継続していきます。

- ③「効率的な組織運営と財務管理の推進」につきましては、移転後、これまで課題であった送迎用の車両の購入を思い切って実施いたしました。これによって更に効率的な車両運用を行うことで、経費削減に寄与するものと思われま。

職員に対しては、次年度よりタイムレコーダーの導入を検討しました。職員の職務環境の改善は、職員確保の難しい昨今の労働者状況を鑑みると急務であり、先の人事考課、また今理事会で協議される資格手当の改善、昇給を止めていた時代の職員への細やかな対応などで、できるだけ離職がないように努力する所存です。

また特養のユニット化もあり職員数の増が求められもしましたので、積極的に非正規雇用から、正規雇用を進めているところです。

最後に、旧事業所跡地につきましては、ほぼ計画どおりに売却が完了しました。これによって、当初計画していた移転計画のすべての財務的な課題が完了したことになります。

(2) 理事会・評議員会

- ① 2013年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2013年	4月23日	第1回理事会	第1回評議員会	於：大阪教会
2013年	5月30日	第2回理事会	第2回評議員会	於：るうてるホーム
2013年	10月14日	第3回理事会		於：るうてるホーム
2013年	11月25日	第4回理事会		於：るうてるホーム
2014年	3月27日	第5回理事会	第3回評議員会	於：るうてるホーム

- ② 監事監査は、2013年3月27日（事業）、5月22日（運営）に行われました。

(3) 2013年度事業概要（2014年3月31日現在）

- ① 実施事業数：16事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業（B型）、訪問介護事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者自立支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業

（市委託事業）

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、

- ② 総事業費 554百万円（12年度558百万円）

- ③ 職員数 114名（うち非正規52名）

2. チャプレン報告

(1) 運営概要

法人理念の浸透のために、新人研修会で1回、管理職研修で2回、「キリスト教講座」を開講いたしました。今期は事業計画に掲げている、コリントの信徒への手紙1、13章の聖書の言葉をベースに学

びを行いました。

法人ニュース（letter one）は2回発行し、理事長の立場ではありますが、イースターや、クリスマスの意味について触れることでキリスト教の理解を深める一助になればと期待しています。

また、工事の進捗を報告する法人報についても最終報告として1回発行することができました。今後も、財務的な報告を主な課題として年1回のペースで発行する予定です。後援会ニュースも紙面を充実させ、年2回の発行を目指します。

なお、試みとして、2013年度のクリスマス会は、通所事業所を会場として、すべての事業所の協力を得て実施することができました。感謝してご報告させていただきます。

3. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

(1) 運営概要

2013年度は軽費A型からケアハウス（C型）に移行する大きな事業転換の年となりました。また建て替えにより居住環境をはじめ職員配置にいたるまでが変更となったため、上半期は準備に費やす時間が多くを占めることになりました。

移転のための準備をすすめる中で一番の課題は、入居者の介護面と経済面での課題でした。事業形態が変更になることで、継続して生活することが困難な方へは積極的な関わりを行い、無事に新生活へ繋ぐことができました。また新施設移行が可能となった方でも、介護面での支援が必要となる場合が多く、各種介護保険サービスとの調整にも時間をかけました。しかし、実際に移転してみないと何が起こるか予想できないことも多く、不安が無くなることはありませんでした。

新入居者募集については、6月にモデルルームが完成し、パンフレットの作成、配布と行ってきました。結果、旧施設に9月末時点での入居者35名のうち、新施設へ入居された方は、27名。10月から3月までの間に新しく入居された方は、26名（期間中入退居者含む）となりました。

10月からの新しい生活では、旧施設での生活様式に慣れている中で入居者の戸惑いはしばらく改善することはありませんでした。食事や入浴、洗濯など日々でてくる課題に対して、一つ一つ対応していかなければならず、少ない職員配置の中で右往左往する毎日でした。法人内他事業との連携ははじめただけで、当初は混乱や思い通りにならないことも多くありましたが、実績は確実に積みあがってきました。そのような中で、入居者の生活力も徐々に向上していくことができました。リビングの家具の選定、入浴の順番や食事の準備など、入居者同士が話し合い、助け合う場面も多く見られるようになったことは大変嬉しいことではありました。

ケアハウスるうてるは生活における様々な支援が必要となっても、各種サービスを利用しながら、自分らしく生活して行くことができるようにお支えする施設としてオープンしました。あっという間の半年ではありましたが、毎朝の有志での礼拝は一日も欠かさず行われてきたことなど、日々の生活が繰り返される中であって入居者の自立心や生活意欲は日々向上してきたと思います。

(2) 事業実績

①利用状況（上半期は～9/30 移転前まで、下半期は10/1～移転後）

	上半期	下半期	2012年度	差異
のべ利用者数	6,219名	8,216名	15,349名	▲914名
入院のべ日数	420日	359日	1,206日	▲427日
短期入所利用日数	315日	161日	593日	▲117日
稼働率（対実員）	72.3%	90.2%	88.0%	▲6.5%

②入居者の現状（2014年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	2	4	3	2	0	11
女	0	8	16	14	0	38

最高齢：男性 96 歳 2 ヶ月 女性 97 歳 平均年齢：男性 72 歳，女性 80 歳 全体 78.1 歳

介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
上半期	3	4	7	8	1	1	0	24
下半期	2	8	15	4	1	1	0	31
2012 年度	2	5	8	11	2	0	0	28

4. 特別養護老人ホームるうてるホーム

(1) 運営概要

2013年度上半期は移転に向け、旧施設の一部に疑似ユニットを設けることにより食事、入浴、排泄などのシミュレーションを行い、コンセプトやケア内容、必要物品などを具体的に検討しました。課題検討がすすんでいく中で、設備に関しても洗面台の高さや浴室手すりの位置など明確な要望を挙げ、反映させることができました。通常業務を行いながらの移転準備で多忙を極めました。職員一丸となって懸命に取り組んだことにより、大きな事故なく無事新施設へ移ることができました。

移転後は、新たな業務遂行体制のもと、発生する課題にその都度迅速に対応しました。特に移転直後は新しい設備や備品に慣れるのに精一杯で、荷解きもなかなか進みませんでした。ユニットリーダーやフロアマネジャーの舵取りにより各ユニットでの生活が少しずつ整えられていきました。業務はユニットやフロアごとに展開するため、全体での情報共有のあり方が課題となりましたが、事故対策や感染症予防策については、全職員で共有するよう努めました。

また、介護職の労働環境改善を目標としていましたが、移転関連の対応を業務時間内に終えることは難しく、結果として残業時間減には至りませんでした。業務検討や新職員育成に時間を要したことも一因と考えています。

(2) 事業実績 上半期（移転前）／下半期（移転後）

①利用実績

	目標	2013 年度	2012 年度	目標との差異
のべ利用者数	8,601/8,645 人	7,983/8,284 人	16,618 人	▲618/361 人
稼働率	94.0/95.0%	87.2/91.0%	90.9%	▲6.8/4.0%
平均介護度	—	3.9	4.0	—

②利用者の現況（2014年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	1	2	3	1	0	7
女	2	5	10	23	4	43

最高齢：男 91 歳 女 104 歳 平均年齢：男 81.2 歳 女 90.8 歳

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	2	5	0	0	0	0	7
女	11	20	9	1	2	0	43

平均在所期間：3.7年

5. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営概要

移転に伴い、短期入所の利用定員は8名から20名へ変更となりました。移転の直前直後は、スムーズに移行できるよう、お客様やご家族、関係機関に十分説明し了解を得た上で、利用者を長期滞在者に絞り込んで対応しました。移転後は職員体制が十分に整わず、全20室を開けることができませんでしたが、入院中の方の居室を活用しつつ、リピーターの利用再開、新規利用者の獲得というように徐々に利用枠を拡大していきました。また、軽費老人ホームからケアハウスへ移行することが困難となった方についても積極的に受入れを行い、特養入居までの間待機していただくことができました。

介護保険関係でのご利用は、介護者のレスパイトや利用される方の体調管理などが主たる利用背景であることには変化はありませんが、定員増や個室化が確実に影響し、2013年度新規受け入れ47件のうち、31件が10月以降の新規契約となっています。

障害者関連事業所や当事者からの相談も移転後はほぼ倍増し、5名の新規利用者を獲得することができ、年間のべ利用日数は537日で前年比でおよそ5倍となりました。緊急利用についても、例年同様、介護者の体調不良、虐待などを背景に毎月1件以上の相談があり、積極的に対応しました。

(2) 事業実績 上半期(移転前) / 下半期(移転後)

	目標	2013年度	2012年度	目標との差異
のべ利用者数	1,758 / 3,077人	1,385 / 1,719人	3,069人	▲373 / ▲1,358人
稼働率	120.0 / 85.0%	94.6 / 47.2%	104.8%	▲25.4 / ▲37.8%

利用者の現況(2014年3月31日現在)

年齢	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男	1	2	6	5	0	0
女	1	3	6	9	10	1

6. 通所介護事業 デイサービスセンターるうてる

(1) 運営概要

新施設へ向けての準備を進めていくにあたってのコンセプトは、「移転」でも「統合」でもなく、「まったく新しい事業所を創る」ということでした。そのために事業部内で4つのプロジェクトを立ち上げ、議論を重ねてきました。プログラムプロジェクトでは、新事業所のコンセプトを「お客様と一緒に作るデイサービス お一人おひとりが主人公」とし、個別プログラムの検討・立案に力を注ぎました。業務改善、入浴プロジェクトでは、新施設での業務内容に応じた職員動線をシミュレーションし、「売り」である入浴設備の効果的な利用や方法などの検討をすすめてきました。引っ越しプロジェクトでは、全体のスケジュール管理と設備、備品関連の選定に関わってきました。

また、現お客様への移行に関しての希望や要望の聞き取りや説明会なども随時行ってきました。そのような中、最終アンケートの結果では、約97%の方が新施設への移行を希望されていることがわかり、期待に十分応えられるかが大きな課題となっています。このように通常の業務をこなしながらの準備は大変ではありましたが、職員相互の協力のもと無事に10月からの事業をスタートすることができました。

稼働率アップへの向けての取り組みは年度当初に目標をあげてはいましたが、準備にこのほか業務が集中したために、前半の稼働率は75%を切る月もありました。10月以降は、営業活動に力を入れ、事業の「売り」をしっかりと宣伝した結果、3月までの間に36名の体験利用を受け入れ、そのうち19名が利用につながっています。

(2) 事業実績

上半期	サービスセンター（B型）	デイセンター（D型）
のべ利用者数	3,753人	816人
1日平均利用者数	24.1人	6.2人
稼働率（対定員）	80.2%	62.3%

下半期	目標	2013年度（後）	目標との差異
のべ利用者数	4,522人	4,642人	120人
一日平均利用者数	30人	30.5人	0.5人
稼働率（対定員）	86%	87.3%	1.3%

①下半期の介護保険サービスは、新規利用24名、利用再開3名に対し利用休止者は21名でした。

②2012年度の稼働率は、71.6%でした。

7. 障害者多機能事業 ジョイフルるうてる

(1) 運営概要

身体障害者デイサービスとして、市から委託を受けて運営してきた当該事業は、介護保険の通所介護に併設する形で1991（平成3）年から行ってきました。この間、市内には身体障害者の入浴サービスを行う事業所はなく、るうてるホームが唯一の事業所となっていました。そのニーズには充分応えられているとはいえませんでした。

この度、るうてるホームの新たなチャレンジとして、昨年10月に障害者多機能事業所（生活介護、就労継続支援B型）として指定を受け、歩みが始まりました。まだまだ手探りでの運営が続いています。特に高齢者と障害者の対応の違いや支援の在り方の違いにはとまどいや驚きは隠せませんが、様々な経験により実績を積み上げていくほかないと考えています。

生活介護は、従来の入浴サービスを中心とした活動を行っています。看護師がほぼ常時配置されているため、医療ケアの必要な利用者の方への安心感につながっています。就労継続支援B型は、建物内の清掃などの委託を中心に活動を考えていましたが、3月ようやく1名の利用者と契約ができて、少しずつ活動にはいることができました。

2013年度後半は、事業のイメージと方向性を確認する意味で、近隣他市の複数の事業所への見学研修と内部での勉強会を行ってきました。また利用者獲得のための営業活動も積極的に取り組み、生活介護では、3月までに新規利用が7名ありました。

(2) 事業実績

生活介護	目標	上半期	下半期	目標との差異
のべ利用者数	780 (930) 人	625人	743人	▲155 (187人)
一日平均利用者数	5 (7.5) 人	4.0人	6.0人	▲ 1.0 (1.5人)
稼働率（対定員）	33 (75) %	26.7%	60.0%	▲6.3 (15%)

() は下半期

就労継続支援B型	下半期	2012年度
のべ利用者数	9人	1128人
一日平均利用者数	0.07人	3.6人
稼働率（対定員）	0.73%	36.3%

8. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営概要

10月の事務所移転に伴い、地域住民及び関係団体への周知や、事務所内を多機能で効率的な配置、文書管理方法、必要物品の整理を行いました。小スペースでも地域住民にとって相談しやすく、職員にとってコミュニケーションが取りやすく効率的な事務所の環境づくりを引き続き行います。

個別支援に対応する力量の向上については、個別支援の充実を図りました。介護予防支援の契約数は増加しており、また、基本チェックリスト未回収者訪問から相談につながるケースも増え、担当職員数が実質的に減少した中で、一人一人が様々なケースを担当する機会が増えました。成果としては、個別支援での関わりから明らかになった課題をもとに地区住民対象とした介護予防教室に発展した取り組みができました。

2013度は2地区の自治会、地区福祉委員会、民生委員の方々と協働で研修会や教室開催しました。目標としていた全担当地区での教室開催は達成できませんでしたが、個別支援や家族介護教室を通じて住民の方々との関わりが広がっています。家族介護教室については、市内他圏域や他団体の関係者に見学や問い合わせがあるなどの関心が広がっており、地域支援に貢献できてきました。

地域包括ケア構築の課題の一つである「認知症ケアの充実」は、認知症サポート医との協働で認知症の診断ができる市内の診療所と相談機関を載せた認知症マップの作成に協力しました。「災害時対応ネットワーク」については、実際に災害にあった事業所へ出向き被害状況の聞き取りなどを行いました。

(2) 事業実績

①包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業

相談実績	2013年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	215	0	63	55	11	344
	延件数	296	0	74	63	12	447
	夜間緊急	0	0	0	3	0	3
相談実績	2012年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	189	0	64	80	17	350
	延件数	261	0	85	113	17	475
	夜間緊急	0	0	1	4	0	5

イ. 介護予防ケアマネジメント業務

	2013年度	2012年度
二次予防高齢者ケアプラン作成数	1件	0件

ウ. 権利擁護事業 ()は実人数

	2013年度	2012年度
権利擁護に関する相談	9件(9人)	19件(16人)
高齢者虐待に関する相談	3件(3人)	19件(12人)

エ. 包括的継続的マネジメント業務 ()はのべ人数

	2013年度	2012年度
介護支援専門員支援に関する相談	16件(17人)	71件(56人)

②指定介護予防支援に係る事業

	目標	2013 年度	2012 年度	目標との差異
要支援者ケアプラン作成数	1,200 件	1,564 件	1,272 件	364 件
うち委託件数	900 件	1,318 件	1,106 件	418 件
うち自事業所作成件数	300 件	246 件	166 件	▲54 件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 ()は参加人数

	2013 年度	2012 年度
開催回数	4 回(90 人)	3 回(54 人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 ()は参加人数

	2013 年度	2012 年度
運動サポーター養成講座	0 回 (0 人)	1 回 (14 人)
運動サポーターフォロー講座	0 回 (0 人)	1 回 (25 人)
運動サポーター連絡会議	4 回 (人)	3 回 (22 人)
カラコロ体操	75 回 (1490 人)	66 回 (987 人)
その他の事業 (ボランティア活動支援等)	4 回 (20 人)	0 回 (0 人)

ウ. 二次予防事業対象者に関する実態把握

	2013 年度	2012 年度
基本チェックリスト未回収者戸別訪問	110 人	82 人

④その他の事業

ア. 家族介護支援事業 ()はのべ参加者数

	2013 年度	2012 年度
家族介護教室	13 回(78 人)	3 回(54 人)

イ. 認知症高齢者見守り事業 ()はのべ参加者数

	2013 年度	2012 年度
認知症に関する教室・講演会	1 回(34 人)	2 回(135 人)

9. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営概要

今年度も、昨年度に引き続き法令順守のための取り組みを進めてきました。介護支援ソフトの追加導入により、介護予防プランの作成と進捗状況の管理が容易になり、事務効率が格段に向上しました。また、法令順守についての対応も継続し、業務水準を明確にする事業所内ガイドラインの作成を継続して行っています。

総合相談機能の質的向上への取り組みについては、事業所全体と個別研修計画を作成し、それぞれの職員の課題意識を明確にしつつ積極的に外部研修を受講しました。昨年度より再開している社会貢献事業は、年間で5件支援しましたが、行政や社会貢献事業を実施している他法人との連携の必要性も課題として明らかになってきており、今後の課題となっています。

移転に伴って、3事業所が同室となったことで迅速な情報共有が可能になった効果がみられた一方、各職員の守秘義務の徹底が課題となりました。また、ケアハウス入居者様のケアマネジメントを中心に法人事業所間の一体的運用がより一層必要となっています。そのため法人内でのカンファレンスを開催するなどに取り組みました。

(2) 事業実績

	目標	2013年度	2012年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,680件	1,713件	1,570件	33件
介護予防ケアプラン受託数	360件	452件	409件	92件
一人あたり請求件数/月※1	32.9件	34.4件	31.4件	1.5件
一人あたり支援件数/月※2	36.2件	38.3件	35.1件	2.1件

※1…一人あたり請求件数 = {要介護ケアプラン数 + (介護予防ケアプラン ÷ 2)} ÷ 4.7 (常勤換算値)

※2…一人あたり支援件数 = (要介護ケアプラン数 + 介護予防ケアプラン) ÷ 4.7 (常勤換算値)

10. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営概要

昨年度に引き続き人員確保に頭を悩まされた1年間となりました。年度途中で常勤のサービス提供責任者が3名退職しました。6月に非常勤事務職員の雇用でサービス提供・事務業務を分担・効率化を図り、12月、1月に登録ヘルパーの非常勤雇用などで人材確保を進め、継続利用者についてはこれまで通りのサービスを提供してきましたが、上半期は軽費ホーム入居者様以外の新規依頼のサービス提供の中断を決断せざるを得ないこととなりました。また、障害ヘルパーについても、10月末での常勤ヘルパーの退職により、同性介護が必要な男性利用者へのサービス提供を断念せざるを得ない状況となりました。

移転後は、ケアハウス新入居者を中心に新規利用者へのサービス提供を再開すると同時に、法人全体の事業の把握に努め、協力体制を模索しつつ具体的なヘルパー応援を実施しました。

サービス提供面では、医療行為や報酬体系の壁によるサービス提供の断念や、特定の職員に超過勤務が偏ってしまうこと、法人の持ち出しによるサービス提供が発生してしまうなどの課題にも直面し、事業所体制面では今年度の目標となっていた喀痰吸引等業務の事業者登録を目指しましたが、実施には至りませんでした。

(2) 事業実績

	目標	2013 年度	2012 年度	目標との差異
利用者数 (月ごと延べ人数) (うち障害者)	1,020 人 (156 人)	781 人 (108 人)	804 人 (137 人)	▲239 人 (▲48 人)
のべ訪問回数 (介護保険)	10,800 回	7,031 回	8,128 回	▲3,769 回
〃 (障害者)	1,500 回	1,665 回	1,774 回	165 回

1.1. 訪問看護ステーションるうてる

(1) 運営概要

訪問看護をめぐる情勢は、これまで以上に在宅重視の政策が推進されることとなり、実際に新規依頼も継続してあります。また、重度者の早期退院・医療機関との調整が業務の重点となり利用者の入退院が多く病院他との連携にも多くの時間を要しています。このような状況の中、看護師の人員確保は相変わらず困難を極めており、年度後半にようやく2名の非常勤看護師を得ることができました。しかし、新規依頼への不十分な対応や職員の業務過多などは抜本的な解決には至っておらず、厳しい状況は続いています。人員不足の中ですが、研修参加は励行し、技量の向上に努めています。

前年度の大阪府の訪問看護支援事業を継承して看護協会及び関西医科大学3病院との連携事業に協力しています。これらの活動で年々病院看護師との連携が深まっており、利用者増及び業務の質の向上に反映しています。保健所を中心とした地域での難病・小児のネットワーク活動にスタッフも参加してきました。

(2) 事業実績

	目標	2013 年度	2012 年度	目標との差異
延べ利用者数	384 人	359 人	407 人	23 人
介護保険延べ件数	1,200 件	798 件	1,120 件	▲80 件
医療保険延べ件数	2,280 件	3,229 件	2,827 件	547 件

(3) 事業実施状況 <2014年3月時点の利用者状況> () は2013年3月

①年齢区分

40歳以下	10人	(8人)
40～60歳	0人	(1人)
60～70歳	6人	(8人)
70～80歳	9人	(13人)
80歳以上	5人	(5人)

②介護度区分

要支援1	0人	(1人)
要支援2	0人	(0人)
要介護1	3人	(1人)
要介護2	4人	(7人)
要介護3	4人	(6人)
要介護4	4人	(3人)
要介護5	5人	(8人)
非該当	10人	(9人)

③疾患別人数

⇒ 難病	病名	人数	
	脳血管障害	5人	(6人)
	糖尿病	2人	(1人)
	心疾患・高血圧	1人	(5人)
	腎疾患	1人	(2人)
	変性疾患	2人	(2人)
	悪性腫瘍	1人	(3人)
	リウマチ	1人	(1人)
	呼吸器疾患	1人	(0人)
	その他(高齢等)	2人	(2人)
合計	16人	(22人)	

障害種別	病名	人数	
	神経難病	4人	(6人)
	障害	1人	(2人)
	癌末期	0人	(0人)
	小児	9人	(6人)
	合計	人	(14人)

1.2. 栄養室

(1) 運営概要

2013年度の上半期は移転後の食事提供についてのシミュレーションを行いました。特に特養においては各ユニットでの食事になるので、実践的に時間の計測も行いながら適切な段取りを模索していきました。その結果、移転後の当日から1食も欠けることなくきちんと食事を取っていただくことができました。下半期は安定的な運用が可能になってきた時点で、新しい施設にふさわしく各事業所の特色を生かした食事の楽しみを味わっていただくことを重点的に進めました。

給食会社との連携については、現場職員が年当初に掲げた「楽しみたい！こだわりたい！思いやりのるうてるごはんは幸せの素」というコンセプトの実現のために共に打ち合わせを重ね、移転後は全面的に協力していただき、安定的な提供システムの確立というべき体制を作ることができました。

実績面では、入所、デイとも稼働率の低下により、食数が予定より減少したため、1日あたりの管理費は上昇しました。下半期はケアハウスの入居率も徐々に回復するとともに、特養、ショートステイの稼働率も上がってきたこと、またデイサービスも障害デイの利用者が増えてきたこと、高齢分野も一時落ち込んだものの、段々回復の兆しが見えてきたことから、3月にはようやくプラスに転じました。

(2) 事業実績

		上半期	下半期	合計	2012年度
軽費	実食数	17,622食	20,691食	38,313食	40,690食
特養	実食数	25,402食	27,015食	52,417食	52,625食
	経管	2,542食	3,544食	6,086食	5,007食
デイ	食数	4,862食	4,452食	9,314食	10,612食
障害	食数	デイに含む	584食	584食	デイに含む
配食	食数	807食	715食	1,522食	1,843食

(3) 事業実績状況

	特別献立	イベント食	手作りおやつ	デイサービス	手作りおやつ
4月	花見弁当 誕生会特別献立	東北地方 郷土料理	よくばり抹茶プリン	花見弁当 寄せ鍋	
5月	創立記念メニュー 誕生会特別献立		サラダクレープ	創立記念メニュー	
6月	誕生会特別献立		ピザ		
7月	粉もんパーティ 誕生会特別献立		エビ餃子	流し素麺	

8月	夏祭り 誕生会特別献立		キウイ大福	屋台メニュー 流し素麺	
9月	敬老祝いメニュー 誕生会特別献立			敬老祝いメニュー	
10月					
11月					
12月	クリスマス祝会		クリスマスケーキ	クリスマス祝会	デコレーション ケーキ
1月	おせち料理 餅パーティ	誕生会(特養 ユニット)		おせち料理 鍋物(ジョイフル)	白玉善哉
2月	季節のごちそう	きりたんぽ 誕生会(ユニ ット)	コロッケ	きりたんぽ鍋	
3月	にぎり寿司バイキ ング(ケア) 鍋バイキング(ケ ア)	誕生会(ユニ ット)			

1.3. 総務部

(1) 運営状況

2013年度は、新施設への移転の準備と移転後の調整に係る業務をやり遂げることができたことを評価したいと思います。年度当初は移転に向け、十分な準備を行う計画でしたが、実際には日常業務と建築工事に関する様々な業務や打ち合わせなどに予想以上に時間がかかり、直前まで追い立てられながら進めることになりました。

移転後は実際に施設での業務を開始してから必要になった大量の器具什器を整備することになりましたが、これも12月末をもって区切りをつけることができました。

①移転後の取り組み

- ア. 積年の懸案であった書類関係の整備については、場所は執務室からは離れてはいるものの、可動式書庫の保管庫を整備することができ、保存年限毎かつ種類別での文書保存を行うことができるようになりました。収納庫も散逸していた書類を適切に保管できるようにしました。各部署で保管している文書のうち総務での保管が適切なものの仕分けを進めてきました。
- イ. 移転事業そのものとともに2013年度の最も大きな課題であった新会計基準への移行は上半期から研修や講習会に参加するとともに、畑会計事務所とも打ち合わせを重ねて、準備を進め、経理規定も変更しました。導入ソフトも検討を重ねた結果、将来的な業務効率化も視野に入れ、ほのぼのの会計システムを採用しました。これに合わせて給与ソフトもほのぼのに切り替えたため、下半期はほのぼのの移行業務が中心になりました。
- ウ. 新施設へ移転して最も実現したいことがこのハードを生かせるための一体的な運営でした。各事業所の運営状況を的確に把握し、情報を共有し相互連携を進めていくための情報の集約と発信についてはまだ試行錯誤の段階ですが、徐々に取り組みをはじめています。

②効率的な運営

- ア. 一体的運営の取り組みの中で、消耗品の一元管理を開始しました。最もよく使うコピー用紙や各種事務用品、トイレトーパーパー、ペーパータオル、プラスチック手袋などから始めています。あわせて設備、器具、備品等の一元管理もすすめています。

- イ. 水光熱費の管理は半年経過したところではありますが、建物全体で効率的な支出になるよう進めてきました。
 - ウ. 労務管理と業務環境改善を目的としてタイムレコーダーの導入を検討し、幹部職員同士で議論を深め行く中で、今年度は機種選定のみとなりました。新年度から早い導入できるよう準備をすすめてきました。
- ③業務体制の向上
- ア. 事務的な業務の集中化を進めて各事業所の業務負担の軽減化を図りました。郵便の受発信や現金での集金を口座引き落としに加える等を引き受けていきました。
 - イ. 継続的な人材確保と育成のため2013年度の新職員採用活動は主にリクナビを活用して行い新卒職員として1名採用しました。
 - ウ. 効率的な業務運営のため業務の分担を行っていますが、固定するのではなく、適宜交差させながら個人のレベルアップを図り、体制を向上させてきました。

1.4. 四條畷市委託事業

(1) 運営概要

配食サービス、リネンサービス共に、年々減少傾向です。配食サービスについては、新規利用が3件ありましたが、在宅サービスへの移行をつなぐために一時的に利用するケースが多く、これは近年の傾向となっています。リネンサービスは、新規利用者はありませんでした。外出支援移送サービスは、4月に1件と、利用はあったものの1件に留まっています。

(2) 事業実績

①配食サービス

	2013年度	2012年度	差異
利用者数	74人	133人	▲59人
配食数	1465食	1780食	▲315食

②リネンサービス

	2013年度	2012年度	差異
対象者数	41人	63人	▲22人
のべ枚数	501枚	899枚	▲398枚

③外出支援移送サービス

	2013年度	2012年度	差異
利用実人員	1人	0人	1人
延べ利用者数	1人	0人	1人